



TITLE:

表紙、序、例言、目次、図版目次  
、挿図目次、表目次、奥付

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、奥付. 京都大学構内遺跡調査研究年報 2020, 2018

ISSUE DATE:

2020-02-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/252804>

RIGHT:

# 京都大学構内遺跡調査研究年報

2018年度

2020

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

京大文化遺産調査活用部門

# 京都大学構内遺跡調査研究年報

2018年度

2020

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

京大文化遺産調査活用部門

## 序

本学構内に残る遺跡の調査・研究および保存・活用を主たる業務としてきた文化財総合研究センターは、2019年4月1日、文学研究科附属ユーラシア文化研究センターとともに統合再編され、文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センターとして新たに出発した。旧センターが担ってきた業務は、新センター内に作られた京大文化遺産調査活用部門が継承することになった。本年報は、旧センターが調査・研究の成果を広く発信するために刊行してきたものであり、新センターにおいても同様の形態で継続させることにした。

第Ⅰ部で報告する2件の調査報告のうち、田中関田町遺跡は試掘調査で新たに見つかった遺跡で、「名勝清風荘庭園」の東側に隣接している。出土遺物には大量の近代遺物が含まれており、そのなかには、「清風荘」と墨書のある陶片や「京都府立療病院」「府立医大」「京都府立医大附属医院」「京陶」といった文字をもつ陶磁器などが含まれていた。「清風荘」やその前身である「清風館」に関係する遺物であり、清風荘の歴史の一端を明らかにする貴重な資料となった。岡崎国際交流会館新設に伴って調査された白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡からは、古代～近代までの多種多様な遺構が見つかった。近世の大溝は、岡崎村の境界溝とみられ、幕末期の加賀藩邸の西を限る堀としても転用され、藩邸廃絶から時を経ずに埋められ整地されたことが埋土の状況や出土遺物から推測された。近世から近代にかけて、岡崎村の土地利用がどのように変遷していったかを示す重要な知見が得られた。

第Ⅱ部の紀要は、構内の遺跡から検出された道路遺構に関してまとめたものである。本年度から3年間の予定で進めている「白川道」に関する研究プロジェクトの成果の一端である。第Ⅰ部・第Ⅱ部ともにご高覧いただき、ご批評をいただければ幸いである。

新センター京大文化遺産調査活用部門では、旧センターがおこなってきた文化財情報の社会的発信事業をさらに推し進めていきたいと考えている。本学総合博物館と連携した特別展「文化財発掘」の6回目となる今回は、「幕末・近代の出土文字資料」と題して、2月19日～4月19日の会期で展示をおこなっている。また、2018年6月18日の大阪府北部を震源とする地震で、旧センター資料室（尊攘堂）は内部が損傷し、長らく非公開としてきたが、施設部のご尽力のもと復旧工事も終了し、本年3月、展示資料もリニューアルして公開する運びとなった。今後も多方面と連携しつつ、社会的発信事業に継続的かつ積極的に取り組む所存であるので、ご支援、ご協力をお願いする次第である。

なお、文化財総合研究センターの前身である埋蔵文化財研究センターの時代から、34年間の長きにわたって、旧センターの発展・運営に尽力された清水芳裕氏が2019年7月3日に逝去された。氏は、京都大学構内遺跡の調査・研究を指揮するとともに、土器の胎土分析による産地同定研究の分野で学界をリードしてきた。ここに謹んでご冥福を申し上げる。

2020年2月

京都大学大学院文学研究科附属  
文化遺産学・人文知連携センター長

吉井秀夫

## 例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で2018年4月1日から2019年3月31日までに発掘、整理作業をおこなった埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター京大文化遺産調査活用部門における研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系（日本測地系、 $x = -108,000$   $y = -20,000$ ）が（ $X = 2,000$   $Y = 2,000$ ）となる京都大学構内座標により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。  
I：京都市田中関田町遺跡の発掘調査  
（例 I 1：京都市田中関田町遺跡出土遺物1番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のもの、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また、遺構・遺物の撮影は原則として、それぞれ報告者が担当した。
- 10 編集は、千葉豊が担当し、伊藤淳史、富井眞、笹川尚紀、内記理、磯谷敦子、柴垣理恵子、長尾玲、西田陽子が協力した。

# 京都大学構内遺跡調査研究年報 2018年度

## 目 次

### 第 I 部 2018年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 2018年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
第 2 章 京都市田中関田町遺跡の発掘調査	3
1 調査の概要	3
2 層 位	5
3 中世の遺跡	5
4 近世・近代の遺跡	15
5 近代の遺物にかんする文献史料などからの考察	58
6 小 結	66
第 3 章 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡の発掘調査 I	75
1 調査の概要	75
2 層 位	79
3 近世の遺構	83
4 近世の遺物	91
5 小 結	104
参 考 文 献	108
京都大学構内遺跡調査要項	111
報告書抄録	123

第Ⅱ部 京都大学大学院文学研究科附属  
文化遺産学・人文知連携センター  
京大文化遺産調査活用部門紀要Ⅰ

道路遺構の考古学的検討に向けて

—京都大学構内遺跡での検出事例から—

1 はじめに	127
2 京都大学構内遺跡検出の道路遺構	127
3 発掘道路遺構の分類試行と課題	131
4 おわりに	134

図 版	巻末
-----	----

## 図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都市田中関田町遺跡
- 1 灰褐色土掘削後の南調査区全景（北から）
  - 2 灰褐色土掘削後の北調査区全景（北東から）
- 図版 3 京都市田中関田町遺跡
- 1 褐色土掘削後の南調査区全景（北から）
  - 2 褐色土掘削後の北調査区全景（南西から）
- 図版 4 京都市田中関田町遺跡
- 1 完掘後の南調査区全景（北から）
  - 2 完掘後の北調査区全景（南西から）
- 図版 5 京都市田中関田町遺跡
- 1 流路 S D 23 完掘後（東から）
  - 2 流路 S D 23 石仏出土状況（北西から）
  - 3 攪乱 S K 2 からの五輪塔出土状況（北から）
  - 4 井戸 S E 20（西から）
  - 5 井戸 S E 18（南から）
  - 6 流路 S R 1 検出状況（東から）
- 図版 6 京都市田中関田町遺跡
- 1 S D 23 出土遺物, S D 24 出土遺物
  - 2 石仏
- 図版 7 京都市田中関田町遺跡
- 1 五輪塔(1)
  - 2 五輪塔(2)
- 図版 8 京都市田中関田町遺跡
- 1 S P 1 出土瓦
  - 2 瓦の刻印
- 図版 9 京都市田中関田町遺跡
- 墨書と刻印をもつ土器
- 図版 10 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡 I
- 1 調査地全景その 1（表土攪乱除去後・東から）
  - 2 調査地全景その 2（黒色粘質土掘り上げ後・東から）



- 図版11 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡Ⅰ
- 1 灰褐色土除去後調査区全景（東から）
  - 2 黄灰色土除去後調査区全景（東から）
- 図版12 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡Ⅰ
- SD 1（南から）
- 図版13 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡Ⅰ
- 1 SD 1 北壁断面（南から）
  - 2 SD 1 南壁断面（北から）
  - 3 SD 1 上部の東肩断面（南から）
  - 4 SD 1 上部の西肩断面（南から）
- 図版14 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡Ⅰ
- 1 SX 2（南から）
  - 2 SX 2（北から）
  - 3 SX 2 東肩（西から）
- 図版15 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡Ⅰ
- 1 SX 2 第1列最下部の横木と西側の横板（北から）
  - 2 SX 2 第1列の辺材（北から）
  - 3 SX 2 東肩の縦置き板（西から）
  - 4 SX 2 第2～5列の杭（南から）
  - 5 SX 2 の構造物（東から）
  - 6 SX 2 第4列の横木直下の堆積相（南から）
- 図版16 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡Ⅰ
- 1 SX 2 第5列の横木直下の堆積相（南から）
  - 2 SX 2 第2列南側の底面（北から）
  - 3 SX 1（東から）
  - 4 SX 1 横板の合わせ目（東から）
  - 5 SE 1 井筒検出状況（南から）
  - 6 SE 8（南から）

## 挿 図 目 次

京都市田中関田町遺跡	
図 1 南調査区 X = 1950 東西畔と北調査 区東壁の層位…………… 4	S E 18 出土遺物, S E 15 出土遺物, S E 8 出土遺物, S K 1 出土遺物, S D 4 出土遺物…………… 27
図 2 中世 I 期・II 期の遺構…………… 6	図 16 石仏…………… 28
図 3 盛土の層位…………… 7	図 17 五輪塔(1)…………… 29
図 4 中世 III 期の遺構…………… 8	図 18 五輪塔(2)…………… 30
図 5 S D 17 出土遺物, S D 25 出土遺物, S D 26 出土遺物, S D 27 出土遺物, 盛土下層出土遺物, 盛土中層出土 遺物, 盛土下層出土遺物…………… 10	図 19 S E 1 出土遺物, S E 3 出土遺物, S E 4 出土遺物, S P 1 出土遺物, S E 10 出土遺物…………… 32
図 6 S D 5 出土遺物, S D 6 出土遺物, S D 9 出土遺物, S D 14 出土遺物, S D 16 出土遺物, S X 2 出土遺物, S X 4 出土遺物, S R 2 出土遺物 …………… 11	図 20 灰褐色土小穴（北調査区）出土遺 物, 灰褐色土出土遺物（北調査区） (1)…………… 33
図 7 茶褐色土出土遺物…………… 12	図 21 灰褐色土（北調査区）出土遺物(2) …………… 35
図 8 茶褐色土出土遺物, 明茶褐色土出 土遺物, 灰黄褐色土出土遺物, 褐 色土出土遺物…………… 13	図 22 灰褐色土小穴（南調査区）出土遺 物, 灰褐色土（南調査区）出土遺 物(1)…………… 37
図 9 褐色土出土遺物…………… 14	図 23 灰褐色土（南調査区）出土遺物(2) …………… 39
図 10 近世 I 期の遺構…………… 17	図 24 灰褐色土（南調査区）出土遺物(3) …………… 40
図 11 井戸 S E 18…………… 19	図 25 表土・攪乱出土遺物(1)…………… 42
図 12 近世 2 期・近代の遺構…………… 21	図 26 表土・攪乱出土遺物(2)…………… 43
図 13 S D 23 出土遺物, S E 11 出土遺物, S E 19 出土遺物, S E 12 出土遺物, S X 3 出土遺物…………… 24	図 27 表土・攪乱出土遺物(3)…………… 45
図 14 S D 24 出土遺物…………… 26	図 28 表土・攪乱出土遺物(4)…………… 46
図 15 S E 20 出土遺物, S E 13 出土遺物, S E 18 出土遺物, S E 15 出土遺物, S E 8 出土遺物, S K 1 出土遺物, S D 4 出土遺物…………… 27	図 29 表土・攪乱出土遺物(5)…………… 47
	図 30 表土・攪乱出土遺物(6)…………… 48
	図 31 表土・攪乱出土遺物(7)…………… 49

図32	表土・攪乱出土遺物(8)……………51	図52	S E 1 出土遺物(1)……………98
図33	表土・攪乱出土遺物(9)……………52	図53	S E 1 出土遺物(2)……………99
図34	表土・攪乱出土遺物(10)……………53	図54	S E 1 出土遺物(3), S E 8 出土遺物, S E 10出土遺物, S E 3 出土遺物, S D 3 出土遺物, S D 30出土遺物, S D 22出土遺物, S D 23出土遺物 ……………100
図35	表土・攪乱出土遺物(11)……………55	図55	黄灰色土出土遺物, 中世以前の包含層上面・遺構上面出土の近世遺物 ……………102
図36	表土・攪乱出土遺物(12)……………56	図56	表土・攪乱の出土遺物 ……………103
図37	表土・攪乱出土遺物(13)……………57	図57	近世～近代における調査地点周辺 ……………105
図38	瓦の刻印……………57		
京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡 I			
図39	調査地点の位置……………75		
図40	遺構配置概略図 (その 1) ……76		
図41	遺構配置概略図 (その 2) ……77		
図42	北壁の層位……………80		
図43	南壁の層位……………81		
図44	大溝 S D 1 の層位……………85		
図45	木組遺構 S X 2 ……………87		
図46	木組遺構 S X 2 の構造材……………89		
図47	S D 1 出土遺物(1)……………92		
図48	S D 1 出土遺物(2)……………93		
図49	S X 2 出土遺物(1)……………94		
図50	S X 2 出土遺物(2)……………95		
図51	S X 2 出土遺物(3)……………96		
			道路遺構の考古学的検討に向けて
		図58	吉田キャンパスにおける道路関連遺構の検出地点 ……………129
		図59	中世白川道路面の状況 ……………130
		図60	近世白川道路面の状況 ……………130
		図61	牛車と車石 ……………130
		図62	幹線道路の系譜 ……………132
		図63	構内で検出された白川道以外の路面各種 ……………133

## 表 目 次

表 1	京都大学構内遺跡のおもな調査……………113	表 3	構内遺跡検出の道路関連遺構……………135
表 2	発掘道路遺構の分類試案 ……132		

## 第 I 部 2018年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 2018年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都市田中関田町遺跡の発掘調査

第3章 京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡の発掘調査 I

第Ⅱ部 京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター  
京大文化遺産調査活用部門紀要Ⅰ

道路遺構の考古学的検討に向けて

伊藤淳史

2020年 2 月28日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報  
2018年度

編集 京都大学大学院文学研究科附属  
発行 文化遺産学・人文知連携センター  
京大文化遺産調査活用部門  
京都市左京区吉田本町

印刷 三星商事印刷株式会社  
製本 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300